

生涯を通して、
日本とスウェーデンを
つなぐ仕事がしたい！

テレース・ カールソン さん



スウェーデンヒルズの交流センターで、昨年10月より交流事業担当職員として勤務しているテレース・カールソンさんに日本に興味を持ったきっかけや交流センターでの仕事、将来についてお話をお聞きしました。

きっかけは「花より男子」

出身 はスウェーデン北部のウメオ市で、中学3年の時、友人に勧められて見たテレビドラマ「花より男子」が、日本に興味を持ったきっかけです。アニメの「NANA」も見ていました。高校卒業時に本格的に日本語を学びたいと思い、日本語学科のある南部のルンド大学へ進学。在学中にサマースクールで岐阜大学に2カ月ほど滞在しました。卒業後も別の大学で経営を学び、京都の立命館大学に1年間留学しました。その後、スウェーデンに戻ってからも、スウェーデン人と日本人の夫婦が経営する日本料理店で働きながら、日本語を身に付けました。

住民の挨拶に感謝

交流 センターで働くきっかけは、今年の夏に交流センターで働いていたソフィア・ヤンベリさんのフェイスブックで職員を募集しているを見つけ、応募してみました。北海道には旅行で札幌や小樽、旭川など何度か訪れたことがありましたが、当別に来て印象的なのは、住民の方がどなたも暖かく接してくれることです。散歩や通勤の時にすれ違う時にいつも挨拶してくれるのが、本当にうれしいです。また、ウメオ市は白樺が有名で、「白樺の街」という別名があります。当別の町の木が白樺と聞いて親近感が湧いており、街並みもスウェーデン郊外の雰囲気似ているのでとても気に入っています。

大好きな日本のために

仕事 は交流事業を担当しており、スウェーデン語の講座では発音、数字、挨拶



や簡単な自己紹介などを教えています。現在は残念ながら新型コロナウイルスの影響で開講できていませんが、インターネットを使っただけの再開を目指しています。すぐやりがいのある仕事ばかりで、できればずっとここで働きたいと思っています。双子の姉も日本人の男性と結婚して東京で働いているので、自分も日本で働き続け、スウェーデンと日本をつなぐ仕事に携わってみたいです。

テレースさんは野球観戦が趣味で、甲子園球場のライトスタンドで応援したこともあるという熱狂的な阪神タイガースファン。日本語も、とてもお上手ですので、町で会った時はぜひお話してみてください！

(5月11日取材)